

アオダイショウがノウサギを捕食

伴野正志



絞められて絶命寸前のノウサギ



頭から呑み込みはじめたアオダイショウ



あっという間に肩口まで呑む



呑み込みながら斜面を素早く登る

アオダイショウ *Elaphe climacophora* がノウサギ *Lepus brachyurus* を捕食する場面を観察、撮影したので報告します。

2013年5月21日10時53分、静岡市葵区南の賤機山の農道にて、アオダイショウが獲物を絞めているのを発見し、慎重に近付きそれがノウサギであることを確認しました。発見時、ノウサギは生きていましたが、絞められて絶命寸前だったと思われます。

その後、アオダイショウは当然のようにノウサギを頭から呑み込みはじめ、あっという間に肩口まで呑み込んでしまいました。そして、そのまま農道脇の斜面を素早く登り、藪の中に消えてしまいました。

その後は見つからず、最後まで呑み込んだかは判りませんが、肩まで飲み込んでいることから、最後まで呑み込んだのではと思っています。見つけてから消えるまでの11分間、自然界の掟とはいえ、壮絶な場面に出会うことができました。興奮するより意外と冷静に撮影(記録)できました。

なお、ノウサギはその大きさから、少なくとも生まれたばかりの幼獣ではなく、全長30cm前後の若い個体であろうと三宅 隆氏に、またアオダイショウの生態については加藤英明氏にご教示いただきました。

※ 少しショッキングな写真ですが、アオダイショウがノウサギを捕食する場面は、非常に希少で、貴重な記録と思われるので、掲載しました。(事務局)